

広告



歴史的変革期にあることを 自覚する一年

明けましておめでとうございます。

2007年が皆さんにとりましてご多幸な年でありますようご祈念いたします。

昨年は、市民協働による市制10周年記念事業の成功や、合併後の本格的まちづくり、さらに財政再建に向けた取り組みなど「新石狩市」として大きな転機を迎えた年でありました。

また一方では、若葉小学校6年1組の30人31脚全国優勝や、トリノオリンピックでの國母和宏さん、附田雄剛さんの活躍をはじめ、40社に及ぶ企業進出と大型設備投資や、マイナス14メートル岸壁が竣工し、念願のバナマックス型チップ船の入港が実現するなど、本市発展のけん引役となる石狩湾新港に活気がよみがえり、明るい期待を持つことができるようになりました。

今年、市長、市議会とともに5月改選期を迎えることから、前半期における「市総合計画」「行政改革大綱」「財政再建計画」を取りまとめ、速やかにスタートさせることが大切なことと考えています。

特に、財政再建に当たりましては市民、団体、企

業など多くの皆さま方にとって、痛みも伴う改革とはなりますが、人口減少・高齢社会を背景に従来の行政システムではこれからのまちづくりが成り立っていきません。今こそ私たちは歴史的変革期にあるとのベースに立ち、新しい社会モデル、地方主権の構築に向け取り組み、その意識を共有していかなければなりません。

石狩市は、権威ある自治体研究専門誌において、全国自治体評価で比較的高い評価を受けております。まちづくりの必要要件はあります。石狩市に誇りを持ち現実を直視し、市民、市役所皆でこの時代要請にチャレンジしたならば、明るい結果を得ることができると思っております。

今年、厳しさの中に確かな明日をつかむ年でありたいと思っております。

平成19年 新春

石狩市長

田岡 克介



2007